

実践力向上研修セレクト型 講義内容

講義群Ⅴ ケアや支援を要する人々への理解を深める
 [専門職として、病いや障害、厳しい現実を理解する] 【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師1名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点		研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-5-1	病気・障害とこころ	I		本単元では、障害学の総論として、①障害の個人モデルと社会モデル、②国際生活機能分類に基づく理解と支援、③障害児・者に対する法制度の現状と課題、④障害のある人々の自己実現と社会参加の在り方等について学ぶ。	黒木 俊秀(九州大学、教授)	◎	45分
		II	○				
		III	○				
		IV					
		V					
C-5-2	重い病気の子ども：障害とこころ	I		悪性新生物、腎臓病、心臓病、糖尿病等に罹患する小児は、学校教育法上は「病弱者」と呼ばれ、特別支援学校のほか、医療機関内に設置された院内学級や訪問学級等において教育を受けているが、彼らはしばしば深刻な心理的危機に直面しやすい。本単元では、病弱児とその家族が抱える心理社会的問題とその対応について学ぶ。	藤野 陽生(大阪大学、准教授)	◎	69分
		II					
		III	○				
		IV	○				
		V					
C-5-3	神経発達症：障害とこころ	I		今日、発達障害の理解と支援は、5分野に共通する喫緊の課題である。本単元では、発達障害(神経発達症)の概念と基本的なアセスメント、及び支援に寄与する基本的な理論と技法等について学ぶ。	井上 雅彦(鳥取大学、教授) 黒田 美保(田園調布学園大学、教授)	○	48分 51分
		II					
		III	○				
		IV	○				
		V					
C-5-4	医療化／心理化とメンタルヘルスケアの社会化	I	○	現代社会における心理化(医療化)の功罪について考える。医療人類学から考える心理化の功罪、社会と心理学の関係について：「こころの健康と病の境界線とは？」「何のための、誰のための見立てか？」という基本問題を考える。	石原 孝二(東京大学、教授)	◎	78分
		II	○				
		III					
		IV					
		V					
C-5-5	こころの病とこころの薬	I		今日では、人々が経験するさまざまな悲哀や苦悩の医療化が進み、幼児から高齢者に至るまで医療機関において薬物療法の対象となる傾向にある。心理的支援にたずさわる公認心理師にも薬物療法には関心を抱いてほしい。向精神薬の種類と適応、その効用と限界について学び、薬物療法による支援との協働について考える。	黒木 俊秀(九州大学、教授)	◎	55分
		II					
		III	○				
		IV	○				
		V					

講義群Ⅴつづき ケアや支援を要する人々への理解を深める
 [専門職として、病いや障害、厳しい現実を理解する]【10講義】

研修講義設定の観点	講義形式
I 心理職としての倫理感・基本姿勢	◎ 講師1名による講義
II 人間の生活基盤に関する理解	○ 複数名講師による講義
III 多職種との連携・協働	△ インタビュー・対談講義
IV 全人的・包括的アセスメント	□ シンポジウム講義
V 内省的な支援の実践	

研修No	研修課題	観点		研修内容	研修講師	講義形式	講義時間
C-5-6	インフォームド・コンセントと協働による意志決定	I	○	クライアントと関係を構築しながら、情報共有と協働での支援方針の検討および協働の意思決定のプロセスについて学ぶ。また、クライアントを含むチームでの情報共有(支援の説明、支援経過のフィードバックなど)とインフォームド・コンセントや協働の意思決定についても学ぶ。	田中 康雄(こころとそだちのクリニックむすびめ、医師)	◎	60分
		II					
		III	○				
		IV					
		V					
C-5-7	生命と存在に関わる真実告知	I	○	生命にかかわる事実、実存に関する事実(出自、人生史)などクライアントにとって大切な事実・真実の告知について学ぶ。また、公認心理師が心理専門職として、クライアントが自分にとって大切なことについて伝えることや医師の診断告知プロセスで果たす役割について理解する。加えて、事実の重み付けにどのようなことがあるのか(余命宣告、出自、人種、死別、離別、家族の悲劇や犯罪歴等)についても、具体的事例を通して学ぶ。	久保田 馨(日本医科大学、教授) 柘植 あづみ(明治学院大学、副学長・教授) 山田 勝美(山梨県立大学、教授)	○	40分 80分 46分
		II	○				
		III					
		IV					
		V					
C-5-8	認知症の理解と支援	I		認知症の生物学的課題、認知症の医学診断、医療現場における認知症の現状と課題について学ぶ。さらに、認知症に係る高齢者の現状と生活的課題、高齢者福祉に関する法制度、ライフサイクルにおける高齢者の心理社会的課題についても理解する。さらに、我が国の超高齢社会の現況と課題及び介護福祉制度について考える。	繁田 雅弘(東京慈恵医科大学、主任教授)	◎	50分
		II	○				
		III					
		IV	○				
		V					
C-5-9	高齢者・その支援者を共に支える	I		我が国における高齢者介護の現状と課題、高齢者を支える地域の現状と課題、認知症高齢者への心理的支援について理解する。また、認知症が疑われる被支援者とその家族に対する心理的支援について、事例を用いて学ぶ。	繁田 雅弘(東京慈恵医科大学、主任教授)	◎	52分
		II	○				
		III	○				
		IV	○				
		V					
C-5-10	発達障害(神経発達症)の理解とその支援	I	○	現在、さまざまな現場において、神経発達症(発達障害)の理解とその支援が求められている。本研修では、神経発達症(発達障害)の概念の成立や変遷過程、障害の併存やその問題点などについて概説する。後半では、自閉スペクトラム症の幼児へのアセスメントと支援に焦点を当てて、具体的かつ実践的な内容を、画像や映像を用いながら分かりやすく解説している。神経発達症(発達障害)のある方への支援の基本的な考え方が理解できる内容であり、今後の実践に重要な示唆を与える内容であろう。	黒田 美保(田園調布学園大学、教授)	◎	64分
		II					
		III					
		IV	○				
		V					